明治三十五年寅年の暴風雨のため、岩の根かたに生えていた松の大木が倒れ、このはずみで岩の割れ目にくい込んだ根のために見すぼらしくなったという。

この岩の西方にあった地蔵尊は、大正の初め頃六人の若者のいたづらで、川にころがし捨てられたという。その後、河川工事の際心ある人によって探されたが、とうとう見あたらなかったという。

時がたって終戦後、地蔵尊を望む県道で次々と交通事故死がおこったので、事故防止の守護としようと、七人の有志によって地蔵尊の再建が企てられ、昭和三十五年十一月再建された。木の間に幟のひるがえるのが望み見られる。

（話者　桑名四郎）

形勢（傾城）ケ部屋

《志　茂》

志茂屋敷の北西方に、形勢ケ部屋という所がある。この地は西南方の山頂高く、北は西高星、東高星と周りを山に囲まれ、その中間は谷地の湿地帯で馬は通れず、盆地で隠れる場所には最適の所である。

昔の人の話によれば、その昔、長沼城が落城した際、城下にいた沢山の傾城、（別名女郎衆）が部屋の簞笥や長持、針箱手箱など持って落ちのびて隠れた所といわれる。

簞笥や長持が石となってしまって、今なお西の山上には、簞笥岩、針箱岩の名前がつけられて残っている。

（話者　石井　栄）